

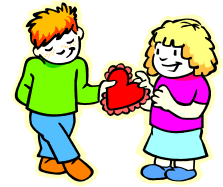


いのちの大切さを考える絵本（幼児～小学生向け）

「みとめあうってすてきだね」(1)

読み聞かせを楽しみながら いのちの大切さを考えてみませんか？

市内5つの図書館で借りられます。



東村山市立図書館

うさこちゃんとたれみみくん デリック・ブルーノ／ぶん・え 松岡享子／やく 福音館書店

転校生のだーんは耳が片方たれているから、みんなからたれみみくんと呼ばれている。でも本当はそう呼ばれるのはいやなんだ。幼い子どもにもわかりやすく描かれています。

かっちゃんワニになる あかさかひろこ／さく・え 解放出版社

かっちゃんめちやくちやるからみんな一緒に遊びたくない。でもかっちゃんの遊びも、やってみたらすごくおもしろい。良い所も悪い所も、認め合っていくことの大切さがわかります。

さっちゃんとなっちゃん 浜田桂子／さく・え 教育画劇

さっちゃんはなっちゃんが好き、なっちゃんはさっちゃんが好き。2人は全然似ていないけれど仲よし。誰でも、それぞれ自分の色を持っていることが素敵なのだと気付かせてくれます。

どんなかんじかなあ 中山千夏／ぶん 和田誠／え 自由国民社

見えないってどんな感じかなあ。聞こえないって…。想像してみるとお友達のこと少しわかったね。

みんなぜんぶいろいろな 中川ひろたか／文 奥田高文／写真 ブロンズ新社

みんないのち、ぜんぶいのち、いろいろないのち。写真が鮮やかです。

ぼくたちのコンニャク先生 星川ひろ子／写真／文 小学館

脳性麻痺で障害をもちながらも保育園の先生をしている近藤さん。子どもたちとのやりとりから、障害をもつ人への理解が生まれる写真絵本です。

こいぬのうんち クォン・ジョンセン／文 チョン・スンガク／絵 ピョン・キジャ／訳 平凡社

ある日、こいぬがうんちをした。みんなから嫌われる独りぼっちのうんちだけど、たんぼぼからは肥やしになってほしいと言われて…。絵の美しい韓国の絵本です。

エディー・リーのおくりもの バージー・ア・フリング／作 フロイト・ケーパー／絵 香咲弥須子／訳 小学館

ダウン症で、他の子とは少し違っているエディー・リー。でも心が豊かで、本当に大事なことは何かを教えてください。

からすたろう やしまたろう／文・絵 偕成社

ずっと、のけものにされていた男の子がいた。6年生で披露したからすの鳴きまねで、やっと人に認められ…。少し古い話ですが、高学年の読み聞かせに。